



12

2022 / December

Kindergarten Information Development Society

東京都私立幼稚園連合会

編集発行人 内野光裕 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 私学会館 TEL03(3262)3666・FAX03(3264)6195

特別寄稿

園バス置き去り事故を受けて考える子どもの安全

NPO法人 Safe Kids Japan 理事長、小児科医 山中 龍宏 先生



はじめに

2022年9月5日に静岡県牧之原市で発生した通園バス園児置き去り死亡事故は、幼稚園教諭および職員の皆さんも大変な衝撃をもって受け止められたことと思います。今回の事故は、2021年7月に福岡県中間市で起きた通園バスの園児死亡事故とまったく同じ事故です。福岡県の事故後に厚生労働省等から事務連絡が出され、その中で再発予防策が示されましたが、また同じ死亡事故が起こったということは、昨年の国の再発予防策は有効ではなかったということなのです。

今回、国は通園バスに関する緊急点検を実施し、通園バスへの安全装置設置義務付けをはじめとする緊急対策を実施することを明らかにしました。今までの「人」だけに依存する対策から一歩進み、テクノロジーを活用する

「環境や製品を変える」とは

子どもの事故のうち、医療機関の受診が必要になる傷害については、発生状況を詳細に記録し、原因を調べ、職員間で共有し、再発予防策を検討することが重要です。たとえば、園庭で栽培しているミニトマトを収穫する体験活動中に、園児がミニトマトを口に入れ、喉に詰まらせそうになったとします。このような事態を経験したら、皆さんはどうされますか？救急搬送時のマニュアルを見直しますか？あらためて職員に救急法の研修を実施しますか？それらが必要ですが、それらはすべて事故が起きた後の対応です。大事なことは事故が起こる前にあらかじめ対策をとっておくこと、これが「予防する」ということです。

皆さんもよくご存じのとおり、幼児は噛み砕く力や飲み込む能力が未発達です。球形で弾力があり、表面がつるつるしているものは、喉に詰まる危険性があることはよく知られています。ミニトマトに関しては、園庭でのミニトマトの栽培はやめること。そして、ミニトマト、大粒のぶどう、うずらの卵などは、必ず「4つに切つて」から食べさせるようにします。園児のお弁当にミニトマトがそのまま入っている場合は、次回からは4つに切つて入れてもらうよう保護者に話します。これが「環境や製品を変える」ということです。豆まき行事では福豆そのものは使わず、代わりに紙を丸めたものなどを使うことも同じ考え方です。

過去の重症事例を知る

ひとつの幼稚園で重大な傷害が繰り返し起こるといふことは滅多にありませんから、自園の経験だけに頼つて「うちの園ではそんなことは起こらない」とは考えないようしてください。国から「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月)が出ていますので、よく読ん

でおいてください。他の園で起きた重症度が高い事故について、自園の状況や対策と比較して、「どうすれば予防することができるか」を職員間で検討することが重要です。そして、これまでの「職員の意識向上」や「マニュアルの見直し」にとどまらず、「環境や製品を変える」ことや、「テクノロジーを活用する」ことを視野に入れていただきたいと思います。場合によっては新たなコストも必要になりますが、長期的にみると、重大な傷害の確実な予防は職員の負担軽減につながります。

おわりに

それぞれの幼稚園には独自の教育方針があり、個性もあるでしょう。子ども達の保護者はその教育方針や個性に共感し、大切なわが子を入園させています。ぜひその思いを受けとめて、各園の特徴を大いに発揮していただきたいと思います。

そして、言うまでもないことですが、大前提として「子ども達の安全」があります。事故が起こる前にあらかじめ対策をとっておくこと、これが最も大切なことです。大都会・東京の子ども達が健やかに育つために、これからも引き続き取り組んでいただきたいと思います。

特別寄稿

園バス事故をふまえた幼稚園の事故防止対策について

株式会社危機管理教育研究所代表

国崎 信江 先生



今年（2022年）9月5日静岡県牧之原市の認定こ

ども園に通っていた3歳女児が通園バスの車内で5時間程度置き去りにされて熱中症で亡くなりました。楽しく通っていた園で大人の過失により命が奪われてしまうなど、あってはならない事故として園の安全対策に社会の関心が高まりました。

【事故の背景】

通園バスには運転手を含む2人の職員と6人の園児が乗っていました。この日は普段の運転手が休みだったため、園長が運転しました。臨時だったため点検を怠り本来の運転手が行っていた車内の確認や消毒をせず

にバスを駐車しそのまま降車して女児をバス車内に置き去りにしました。さらに、登園予定だった女児がいなくてもかわらず担任は、連絡なく休む園児もいるため女児もそうだろうと思いきみ、保護者に連絡をしませんでした。

【繰り返される園バスでの置き去り事故】

昨年7月に福岡県中間市の保育園で園児が送迎バス内に取り残されて熱中症で死亡する事件がありました。バスが園に到着した際、泣いていた1歳児に気を取られ車内を確認しないまま施錠したということ。共通する点として、

- 乗った園児と降りた園児の照合確認を怠った
- 降車時と駐車時の車内点検を怠った
- 担任が登園していない園児の保護者への連絡と職員間の共有を怠った

・日ごろから連絡なく休む保護者への対応を疎かにしていた
ということが挙げられます。

【政府の対応】

政府は昨年の福岡県中間市の事故を受けて全国の保育所や幼稚園などに対し、「保育所、幼稚園、認定こども園及び特別支援学校幼稚園部における安全管理の徹底について」を傳達し、送迎バスを運行する場合、乗車時と降車時に人数を確認し、職員の間で共有するなど安全管理の徹底を求めました。

しかし、川崎幼稚園では乗車した園児と降車した園児を照合する方法が確立されておらず、1年前の教訓は生かされませんでした。

今回の事件後に、政府は幼稚園などの全国の送迎バスに来年4月から置き去りを防ぐ安全装置の設置を義務づけるなどの緊急対策をまとめました。

【見逃されている園での事故を防ぐための対策】

上記の他にも、送迎バスの安全管理マニュアルおよび園児の所在確認チェックシート作成、クラクションの押し方を教える、緊急ボタンを園児の手の届く位置に設置するなど、様々な対策が論じられています。

しかし、私は今回の事故だけに焦点を当てた対策では園児を守る根本的な解決には至らないと思います。まず、事故を起こしてしまう背景に保育士の人員不足があると考えます。日ごろから深刻な人手不足が指摘されていますが、問題は配置基準です。国・自治体・施設で基準が定められているものの、国の最低ラインは3歳児20人に1人、4歳以上は30人に1人であり、幼稚園では1学級あたりの専任教諭は35人以下の園児に対して1人です。

このため、目が離せない、手のかかる園児数十人を職員1人で対応する日々の状況が常に時間に追われる余裕のない状況を生み出しています。そのため子どもの命を預かっているという意識が、

忙しさや慣れによって希薄化してしまい、様々な事故を起こす一因に繋がっているように思います。まずは、職員の配置について見直し、改善が図れることが重要で、そのうえで必要な研修を定期的に行い、安全に対する意識を向上させて事故防止および被害軽減に向けた事故直後の対処を検討し取り組んでいくことが望まれます。

【事故の後の園児の心のケアを忘れずに】

突然友達がいなくなる、そんな衝撃的なことを知った園児の動揺は計り知れませんが、登園を嫌がる、自分や友達をたたく、元気がなくなるなど精神的に不安定になっている子供を見逃さないようにしましょう。園児の動揺を受け止め、楽しいと感じる時間を増やし、スキンシップと笑顔で安心させてあげてほしいと思います。事故が起きた後の子どもたちへの対処についてもケアプログラムや相談窓口を含めてあらかじめ考えておきましょう。

全日私幼連第37回設置者・園長全国研修大会での行政報告 「幼児教育に関する国の施策について」～安全な環境の確保

文部科学省初等中等教育局幼児教育課長 藤岡 謙一先生

令和4年10月24日～25日、長崎県長崎市にて開催された全日本私立幼稚園連合会第37回設置者・園長全国研修大会での、文部科学省初等中等教育局幼児教育課の藤岡謙一課長による行政報告。「幼児教育に関する国の施策について」の最初のテーマ、「安全な環境の確保」の中では、静岡県牧之原市における園児置き去り事故について触れながら、国の緊急対策等について以下のような説明がなされた。

【緊急対策の概要】
① 所在確認や安全装置の装備の義務付け
誰が運転・乗車するにかかわらず、バスの乗車・降車時に、幼児等の所在の確認が確実に行われるようにするため、府省令等の改正により、幼児等の所在確認と安全装置の装備を義務付ける。
② 安全装置の仕様に関するガイドラインの作成
安全装置の装備が義務化されることを踏まえ、置き去り防止を支援する安全装置(仮称)の仕様に関するガイドラインを年内にとりまとめる。

③ 安全管理マニュアルの作成
車側の対策である安全装置の

整備との両輪として、送迎用バス運行に当たって園の現場に役に立ち、かつ、分かりやすく、簡潔な、安全管理の徹底に関するマニュアルを策定する。
④ 早期のこどもの安全対策促進に向けた「こどもの安心・安全対策支援パッケージ」
(1) 送迎用バスへの安全装置導入支援
(2) 登園管理システムの導入支援
(3) こどもの見守りタグ(GPS)の導入支援
(4) 安全管理マニュアルの動画配信や研修の実施等

【緊急対策① 安全装置の義務付け】
誰が運転・乗車するにかかわらず、バスの乗車・降車時に幼児等の所在の確認が確実に行われるようにするため、府省令等の改正により、幼児等の所在確認と安全装置の装備を義務付ける。
(義務付けの内容)
① 降車時に点呼等により幼児等の所在を確認
② 送迎用バスへの安全装置の装備(法的効果等)
・ 指導監査等において、各園側で適切な対応が行われているか確認。

【緊急対策② 置き去り防止を支援する安全装置(仮称)の使用に関するガイドライン】
置き去り防止を支援する安全装置(仮称)の仕様に関するガイドラインは、関係府省令の改正による義務化を受け、早急にとりまとめを行う。↓国土交通省で設置しているワーキンググループで関係者からのヒアリング等を通じ、年末までにガイドライン等を作成する。
◆ ガイドラインのポイントは以下のとおり
(1) ヒューマンエラーを補充する安全装置であること。
(2) 事業者(幼稚園等)への過度な負担とならないようにするた

め、既販車にも後付け可能な安全装置も視野に入れる。
【緊急対策③ 安全管理マニュアル】
車側の対策である安全装置の整備との両輪として、送迎用バス運行に当たって園の現場に役に立ち、かつ、分かりやすく、簡潔な、安全管理の徹底に関するマニュアルを策定する。
◆ 安全管理マニュアルのポイント
は以下のとおり。
○ 毎日使えるチェックシート
毎日見落としがないかを確実に確認する内容
○ バス送迎の業務の流れに沿って、ポイントを整理
園での業務の流れが適切か確認する内容
○ 置き去り事故ゼロをめざす
ヒヤリ・ハット事例の共有、こども自らSOSを出せる支援
バスのラッピングやスモークガラスの使用に関する留意事項
○ シンプルな構成
内容を確実に理解し、読み返すことが負担にならない工夫
【緊急対策④ 「こどもの安心・安全対策支援パッケージ」】
10月末を目途にとりまとめる「総合経済対策」に関連施策を位置づけ、早期に財政措置を講じる方向で検討。
(1) 送迎用バスへの安全装置の導入支援
・ 装備が義務化されるブザーなど、車内の幼児等の所在の見落としを防止する装置の整備等のための改修を支援

(2) 登園管理システムの導入支援
・ 幼児の登降園の状況について、保護者からの連絡を容易にするとともに、職員間での確認・共有を支援するための登園管理システムの導入を支援
(3) こどもの見守りタグ(GPS)の導入支援
・ 安全対策に資するGPSを活用したこどもの見守りサービスに係る機器等の導入を支援
(4) 安全管理マニュアルの動画配信や研修の実施等
・ 安全管理マニュアルの理解が深まるよう、説明動画を作成するとともに研修の実施を支援
・ 送迎用バスに装備する安全装置の推奨リストを作成

安全管理には手間がかかることから、「そこまでやらなくてもいいのではないか」、「人手も時間も取られてしまう」という考えに陥り、慣れや緩みから簡略化、形骸化されることがある。また、安全管理は制約を生み、「子ども達はやりがたがっているのに」、「保護者へのアピールになるのに」と、安全よりも目に見える成果や感動が優先されることもある。園の教職員、特に経営者(理事長・園長)やミドルリーダー(副園長・主任)の意識の醸成が重要である。

広報委員長・千葉伸也
(伸びる会幼稚園・新宿区)

都私幼連の動き

- [12月]
- 12/5 ECEQ 公開保育 (共立大日坂幼稚園)
- 12/7~12/13 ③教諭研修会
- 12/8 広報委員会
- 12/12 ③園長・主幹研修会
- 12/13 教育研究委員会
- 12/15 経営研究委員会
- 12/15 ②次世代育成交流会
- 12/21~12/27 ④教諭研修会
- 12/22 「たのしいなつ」編集会議
- [1月]
- 1/20 認定子ども園研修会 (全体会)
- 1/20 施設型給付幼稚園研修会
- 1/23 私学助成学校法人立協議会正副幹事長会
- 1/27 正副会長・委員長会
- 1/27 連合会 理事会
- 1/27 叙勲等祝賀会
- [2月]
- 2/1~2/7 ⑤教諭研修会
- 2/7 「たのしいなつ」編集会議
- 2/8 正副会長・委員長会
- 2/8 連合会 理事会
- 2/8 (公社) 理事会
- 2/10 私学助成学校法人立協議会運営委員会
- 2/15 施設型給付幼稚園協議会運営委員会
- 2/28 ②養成交流会

WEB注文システムで保護者からの直接注文可能。丁寧な対応で幼稚園運営をサポートします。



ビーポッポ印 園服・園帽・トレーニングウェア・カバン製造元
株式会社 **成増園服研究所**
東京都板橋区大山金井町43-1 TEL (03) 3957-2176 (代)

時代とともに

おおや幼稚園(新宿区)

園長 大矢路子

当園は昭和28年に開園して以来、多くの子どもたちの成長を見守ってきました。

園児たちは、まず春に各々の新たな立場での学習・生活に慣れてもらい、夏になると夏祭りごっこなどで幼稚園の活動を楽しみます。また秋には運動会や芋ほり、展覧会を、冬にはリズムフェスティバルという学芸会を全学年合同で行うことで、園児たちは今の自分と向き合うだけでなく、年上の園児の姿を行事の中で間近にして来年以降の模範を身に着けます。このように行事を通して、園児個人の「ありのままの姿」を大切に受け止めながら、年少から年中、年長、そして小学生への心構えを涵養しています。ご家族にも行事を通して子供たちの成長を感じていただいています。

また、コロナ禍をきっかけにデジタル化を強化した結果、写真や動画、日々の連絡帳等より多くの情報を保護者の方と手軽に共有できるようになり、園での生活がより可視化されました。コロナ禍で多くのことが制限されたのは事実です。しかし、それを悲観するだけでなく、変化を受け入れながらその中でできることに目を向けることが子どもたちの生きる力を育むと考えます。

これからも『子どものありのままを認める』という教育の基本理念を忘れずに、教育内容・環境のどちらにおいても変化を取り入れて、子どもたちの生きる力を育むために出来ることを探し続けて歩いていこうと思っています。

ひろば



編集後記

◆この原稿を書いている10月中旬、政府は幼稚園や認定こども園などに対して、園児の送迎で使用するスクールバスについて、安全装置の設置を義務化し、その費用の9割程度を補助する方針を固めたとの発表があった。昨年7月の福岡県と、今年9月に静岡県で起きた園児の置き去り事件を受けての対策の一環とのことだ。◆この痛ましい事故を二度と起こさないために、まずは送迎後に園バス運転手や添乗者が、必ず目視で確認することを徹底しなければならぬ。その上で、ヒューマンエラーによる事故の確率を限りなくゼロに近づけるため、こうした安全装置を活用すると共に、毎日の出欠の確認や家庭との連携など、全職員が意識を高く持ち、色々な角度からこうした事故の防止対策を考えることが必要だ。◆また、スクールバスを運行している限りは、交通事故に遭遇するリスクもある。様々なリスクが想定されるが、子ども達の安全を守るために、今号の内容が少しでも皆様の役に立つことを願う。(山崎)